# 一人１台端末の効果的な活用に向けた取り組み

越前市南中山小学校

## １　取り組みの概要

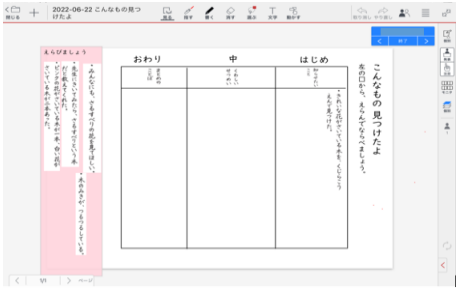
### （１）授業での取り組み

・１年生〈国語〉

児童にとって間違えやすい「は」「を」「へ」の指導に、メタモジを取り入れた。まず、児童が、ワークシートの「は」「を」「へ」の間違いの部分を探し、×記号を動かした。その後、共有した画面を見て、自分がどう考えたかを「指す」機能を使って発表した。共有することで、他の児童との違いも見つけることができた。

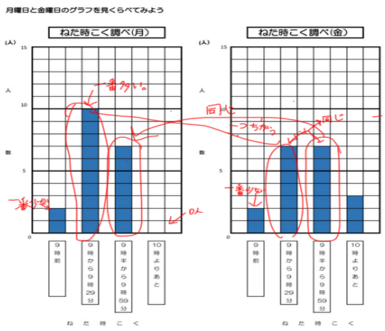
・２年生〈国語〉

「こんなもの見つけたよ」の単元で「はじめ」「なか」「おわり」の構成を意識させるために、メタモジを使用した。児童は文章を並べ替えることによって、「はじめ」「なか」「おわり」の特徴に気づくことができた。また、自分が書いたものを写真に撮り、共有することで、発表する児童もやりやすく、見ている児童もわかりやすくなった。




・３年生〈算数〉

「表とグラフ」の単元で、自分たちの就寝時刻を元にグラフを作成し、ペアで話し合って気がついたことを書きこんだり、発表したりした。メタモジを使用することで、元になる棒グラフへの書きこみが容易にでき、考えたことをたくさん書きこむことができた。また、ペアでワークシートを共有することで、話し合いも活発に行うことができた。

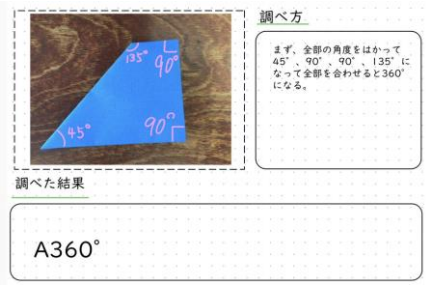


・４年生〈社会〉

「県の様子」の学習のまとめとして、自慢したい市町とそこへの交通手段、おすすめの楽しみ方などをメタモジを使ってまとめた。書くことが苦手な児童も、文字入力だと抵抗が少ないせいか、スムーズに文章を作ることができた。写真を選ぶ楽しさもあり、意欲的に活動を進めることができた。また、お互いに作品を見られるようにしたため、書きこんだ感想をすぐに見ることができ、満足感も得られた。

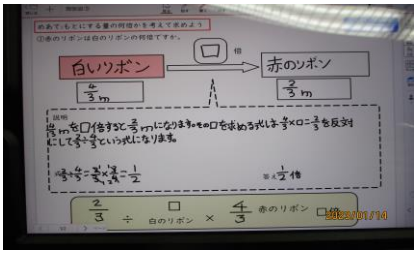
・５年生〈算数〉

「合同な図形」の単元で折り紙で四角形を作り、メタモジワークシートに貼り付け、角の和の求め方を考えた。折り紙に書きこむことで思考の跡を見ることができ、どこでつまずいているかを把握することができた。自力で考えることが困難な児童は、共有することでヒントをつかみ、その後を自分で考え達成感を味わうことができた。




・６年生〈算数〉

「分数÷分数」の単元で、関係図から立式する際に、メタモジワークシートを使った。関係図をグループで共有して、お互いに立式の説明を行った。ワークシートを共有し、さらに自分の言葉で説明することで、理解が深まっていった。練習課題にも、スムーズに取り組むことができた。




その他

欠席児童などのために、リモートで学習を行った。授業の際には、見えやすい位置を考えたり、グループ活動で声かけをしたりするなど、教室との一体感を図るように心がけた。

（２）個別学習での取り組み

毎週金曜日に、一人１台端末を持ち帰って、家庭での学習に利用した。例えば、楽器や歌の練習、ワークシート、計算アプリ、季節の写真、音当てクイズの録音、

音読練習、調べ学習など、さまざまな課題に取り組んだ。ともすると、普段の宿題よりも意欲的に取り組んでいるような場合もあった。

また、学校においては、５年生がSASAの過去問題を読み込んで、各自で学習することができた。学びポケットもダウンロードして、朝学習などで問題に取り組むことができるようになった。

（３）集会での取り組み

全校お楽しみ集会として、６年生が一人１台端末を利用してクイズ大会を行った。反転させた文章を掲示し、何と書いてあるか当てる「反転クイズ」、２枚の類似した写真を順番に見せて、変化しているところを見つける「名探偵クイズ」、ハロウインにちなんだ写真の１部を見せて何の写真かを当てる「ハロウインクイズ」などを作成し体育館のスクリーンに投影して、全校で楽しんだ。

また、七夕企画として、飾りの作り方を写真付きでわかりやすく説明したシートを作成し、全校に配付して、低学年でも簡単に作れるようにした。

## 2　成果

「文房具のように一人１台端末を使う」という状態に、児童は近づきつつあるように思う。児童にとって、一人１台端末を使うことは特別なことではなくなってきた。今後教員側も、さらに研修を積み、効果的な使い方を実践していきたい。